

ガイドワイア ソフトウェア ジャパン



ジョエル氏

日本市場向けに新商品発表 システム構築の柔軟さで時代乗り切る変革

世界12カ国で損保会社にシステムを提供するガイドワイアソフトウェアは、日本市場向けに「ガイドワイアインシユアランススイート」を発表した。従来から販売しているクレームセンターに加え、ポリシーセンター、ポリシーセンターとヒリングセンターの三つの製品から構成さ

れる、損保会社の業務を総合的に支援する。新商品と今後の日本市場への展開について、同社アジアパシフィックのアライアンス・ディレクターのジョエル・ゲイ氏に聞いた。

今回発表した「ガイドワイア インシユアランススイート」は、日本でも既に販売しているクレームセンターに加えて、ポリシーセンターとヒリングセンターを開発したものの。オフショアとして、「クライアントデータ マネジメント」(会社名でも個人名でも保険契約をまとめられる機能)や「レーティング マネジメント」(保険料率を管理するシステム)、「リインシユアランス マネジメント」(再保険管理)がある。

「ガイドワイア インシユアランススイート」は、損保会社のコアオペレーションを包括的に管理することができ、引き受け業務、契約管理業務、保険料請求業務、損害調査サービス管理など、あらゆる場面に対応するアプリケーションをそろえている。

ジョエル氏は「どのアプリケーションも、戦略的な目標、収入アップや顧客満足度の向上、コスト削減を同時に実現できる。損保会社の問題点に合わせて柔軟に対応できるとともにアップグレードすることで、使い続けることができる理想的なシステムだ」と強調する。

アプリケーションは共有のプラットフォーム上に構築され、損保業務のサイクル全般に対応しながら既存システムからの切り替えに必要な機能も提供している。個人向け商品、法人向け商品、労災補償もサポートし、システムポータルフォリオの統合や一本化を実現するよう設計されている。既に構築されている既存システムとの統合を考慮してSOAを基盤に構築されており、Web APIもあらかじめ実装している。

同社では、日本市場を長期的に重要な市場ととらえ、表示項目の日本語化、日本独自のルールへの対応などを推進していく。ジョエル氏は「ソフトウェアのライセンスは正味収入保険料ベースで算出していく予定で、新規のユーザーを年間1社ないし2社ずつ増やしていきたい。また、利用者との情報共有にも力を入れる。今後、損保会社は大きな変革があると思うが、変革には柔軟なシステム対応が必要だ。当社のシステムはそうした変革に対応できるシステムであり、活用してほしい」と語る。